

取組2年目「黄金染」に挑戦

理科実験教室
杉江さん招き

染色の仕組みを学ぶ

鹿角市の尾去沢小学校 生23人がこのほど、学校
(駒ヶ嶺充校長)の4年 花壇で育てたマリーゴ



花を使った草木染めを楽しんだ児童たち(尾去沢小)



講師を務めた杉江さん

ルドの花を使った草木染めに挑戦した。昨年につぎ2年目の取り組みで、青森県内の学校で「1日体験科学教室」などを行っている弘前大学大学院の杉江瞬さんを講師に招き、染色の仕組みを科学的に学んだほか、自然素材と化学染料による染め方の違いを実験を通じて体験。

同校の4年生は、総合的な学習の時間で郷土の伝統工芸「紫根染・茜染」を学習。これをきっかけに身の回りにあるものを使い、尾去沢の新たな特色を作りたいと、昨年、学校花壇で育てているマリーゴールドに目をつけ、花を使った「黄金染め」に挑戦し、完成品を特別授業などでお世話になっ

た地域住民にプレゼントした。講師の杉江さんは、花輪の認可保育園「わんぱくはうす」で園児対象の理科実験教室を行っており、この中で草木染めを園児に教えたことを知った学校が協力を依頼。昨年同様、理科実験と染色体験の二本柱での授業を行った。

授業では、児童たちが事前に採取し乾燥させた大量のマリーゴールドの花をネットに詰め、熱湯に投入して染液を作るところからスタート。児童たちが紐で縛り絞りを施した木綿のハンカチ60枚を液に浸して染めた。

後半では、いよいよ染め上がったハンカチを媒染。アルミ成分のミヨウバンで媒染すると鮮やかな黄色に、鉄成分の水溶液に浸けると灰色になるなど色の変化に児童たちは驚きの表情を見せ、絞り解くと現われた模様

に「すごくきれい」とうれしそうなお声が上がった。児童たちは、「皆で協力してきれいなハンカチが出来て良かった」「ほどこまでどんな模様になるか分からないのはワクワクした」と感想を話し、教室に笑顔が広がった。

染めたハンカチは市教委の絆プランで交流している大湯小児童にプレゼントするほか、からめ節の指導やリング栽培でお世話になった地域の人たちへの感謝の贈り物にする。

30分以上かかるため、この間、杉江さんが草木染めの仕組みを科学的視点で解説。「布は糸を編み込んで作られており、糸の隙間に染料に含まれている科学物質が入り込ん

た地域住民にプレゼントした。講師の杉江さんは、花輪の認可保育園「わんぱくはうす」で園児対象の理科実験教室を行っており、この中で草木染めを園児に教えたことを知った学校が協力を依頼。昨年同様、理科実験と染色体験の二本柱での授業を行った。